

テーマ：自然(土・泥等)

池袋第一保育園(豊島区)

テーマを設定する

園庭で虫探しや水を使った泥遊び、砂遊び、草花を摘んだり、部屋に飾ったりすることなど、自然に触れて遊ぶことが好きで、興味関心がある子どもたち。身体を動かすことも大好きで活発に遊んでいる。普段の保育では味わえない遊びを経験できることや様々な表現方法を体験すること、自然について、さらに興味関心が深まることを期待して、このテーマを設定した。

活動 アーティストワークショップ1～5

ホールで土粘土の感触を味わうダイナミックな遊びをした後、園外を散歩しながら自然物を収集。園庭の土、砂、石などのそれぞれの感触や重さ、見た目の違いを楽しんだり、素材を混ぜて「見たことのない生き物」を創作する活動を通じて、質感の変容やストーリーの発展を味わった。

環境をデザインする

- 園庭内の砂、砂利、小石、自然物採取や園外散歩での自然物採取
- 準備物 土粘土、白ロールシート、壁養生用マスキ、保存用コンテナ

探究活動を実践する

- 活動内容(4日目)
- 1.土粘土とは粗さの異なる砂や砂利に触れて、素材のちがいを確かめる。
- 2.軟らかい土粘土に砂をまぜ、砂粒の粗さや量によって、粘土の硬さや手触りが変化していく質感を味わう。
- 3.砂をまぜたそれぞれの土粘土を使って「見たことのない生き物」をつくる。
- 4.園外のお散歩で集めた宝物(木の実や葉っぱなど)を使って、思い思いに手を動かしながら、偶然生まれた形を生き物に見立てていく。
- 5.「見たことのない生き物」のすみかを考える。保護者に見てもらうための展示場所を考えて飾る。

※1日目は、導入として同テーマに基づき別内容で造形ワークショップを実施。2日目は、からだを粘土に見立てて身体表現のワーク、3日目はホール内で土粘土を使ったダイナミックな創作遊び、5日目は3.5歳児クラスを招待し、園庭を大きなキャンパスに見立てて、合同制作を行った。

●子どもたちの様子

部屋や園庭で砂や泥の感触を全身で味わうダイナミックな遊びを行う中で、オノマトペを切り口に、子どもたちが創作した作品のストーリーを言語化することで、子ども同士で協働する姿や、ストーリーを広げたり深めたりしながら発展させていく姿が見られた。

活動スケジュール(4歳児クラス)

活動内容	実施日	時間/回	人数/回
① アーティストワークショップ1 講師：水内貴英(美術家)	R7.9.12 (金)	60分程度	17人
② アーティストワークショップ2 講師：関かおり(振付家・ダンサー)他2名	R7.10.1 (水)	45分程度	18人
③ アーティストワークショップ3 講師：関かおり(振付家・ダンサー)他2名	R7.12.19 (金)	45分程度	15人
④ アーティストワークショップ4 講師：関かおり(振付家・ダンサー)他2名	R8.1.9 (金)	45分程度	16人
⑤ アーティストワークショップ5 ※ 講師：関かおり(振付家・ダンサー)他2名	R8.1.21 (水)	45分程度	18人 +31人
※幼児3クラスで実施			



振り返りをふまえた気づき

●保育士から

- ・外部講師の言葉をきっかけに、子どもたちの中にそれぞれのストーリーが生まれていくのが印象的だった。目的が設定されていない創作では、場の変化を柔軟に受け容れる姿が見られた。自然物のもつ寛容力を感じた。
- ・ホールで土粘土遊びのワークショップをしてから数日後、男の子たちが園庭の小石を集めて並べていた。「全部ちがうね。」と比べながら違いを言い合う様子や、興味をもってさらに知ろうとする姿から、ワークショップをきっかけに日常の中にも探求心が継続して現れているのを感じた。